

氏名： 山本高久

実施国：グアテマラ国

調査研究

(1) 計画通りに実施されましたか？運営面・経理面での変更点はありましたか？

ほぼ計画通りに実施された。ただし支援金が半額の 30 万円であったことから、現地渡航回数を減らし経理面をできるだけ節約した。そのことから短期でも充実した現地調査内容となるよう務めるよう努力した。

(2) 実施の結果（良かった点、反省点を含めて）

良かった点は、これまでグアテマラ国における少ないデータにより、調査されていなかった色々な環境指標について新規性の高い貴重な調査結果が得られ、今後の調査のさきがけとなる結果が得られた事と、学術的にも反響が大きかったことが非常に良かったと思う。今後の学会発表には調査国であるグアテマラ国を多くの研究者に知ってもらうチャンスにもなろうかと思う。

ここ数年さらなる治安の悪化により、初めは現地調査を一人で実施していたが、協力者（補助者）がいた方が、調査もスムーズに進み充実した研究となることが分かった。現地の協力者の必要性が大きい事が理解でき、その事に速く気づき実施していればと反省する次第である。

グアテマラのごみ処理問題



分別されずに収集された
ゴミ。リサイクルできるゴミを
分けて生活する人々
(ゴミ堆積場にて)



路上脇に不法投棄されたゴミ



アマティラン湖



湖岸



魚の死骸

アマティラン湖の汚染流入負荷は
約 65%相当が ゴミと生活排水由来

(3) 異国の参加者同士または本人が相互理解を深めたと確信できた場面は？

または実施事業に対する一般の反響は？「協力活動」「調査研究」「海外での研修」

本研究のグアテマラ国の環境汚染研究「調査研究」について、データ収集や状況の聞き取りの際、日本大使館、JICA 事務所、当国の環境天然資源省、観光省など関係省庁からの関心と興味が非常に高かった。当国の政府の専門家から環境調査の方法・分析・実施・評価に至るプロジェクトの進め方など科学研究のみならず環境教育や倫理的考えなど人文科学研究について貴重な質問があり反響はかなり大きかった。日本国内においても、これまで当国における調査研究の実績がほとんどないため、九州大学大学院の教授や研究者の方々や各学会関係者にも反響は大きく、当国と日本国共に相互理解を深めたと確信した。